

**第9次豊田市総合計画
ローリング結果公表資料
(2025年度版)**

豊田市

目 次

1 第9次豊田市総合計画について

- (1) 第9次豊田市総合計画の構成 . . . 1
- (2) 計画の進行管理（ローリング）とは . . . 1
- (3) ミライ実現戦略推進プロジェクト体制とは . . . 1
- (4) 豊田市総合計画推進会議とは . . . 1
- (5) 施策別事業集とは . . . 1

2 2025年度ローリング概要

- (1) ローリングのポイント . . . 3
- (2) 2025年度ローリングの流れ . . . 3
- (3) ローリングを踏まえた2026年度取組概要 . . . 5

【別紙】 令和8年度 豊田市の予算（施策別事業集）

1 第9次豊田市総合計画について

(1) 第9次豊田市総合計画の構成

第9次豊田市総合計画（以下「総合計画」という。）は、「ミライ構想」と「ミライ実現戦略2030」で構成しています。

<ミライ構想>

長期（2050年）を展望して設定する普遍的なまちづくりの方向性を示すもの

<ミライ実現戦略2030>

「ミライ構想」の実現に向けて、2025年4月から2030年3月までに特に注力する取組の方向性を示すもの

(2) 計画の進行管理（ローリング）とは

ローリングとは、指標の推移、施策を取り巻く社会環境の変化、施策の進捗状況などを踏まえ、施策立案時の前提や仮説の妥当性を毎年度確認し、施策・事業の見直しや新規立案を予算編成に反映する手法です。

変化の激しい予測困難な社会の中で、本市を取り巻く環境の変化に応じて、チェンジ・チャレンジ思考で、機動的かつ柔軟に施策を展開していくことが重要です。

ミライ実現戦略2030で掲げた取組方針・取組目標を実現するために、目指す姿を起点とした計画の進行管理を行います。

(3) ミライ実現戦略推進プロジェクト体制とは

ミライ実現戦略推進プロジェクト体制（以下「プロジェクト体制」という。）とは、ミライ実現戦略2030に掲げる5つの取組目標の実現に向け、複数の分野にまたがる施策を、部局の枠にとらわれず横断的な連携を進める仕組み（プラットフォーム）です。

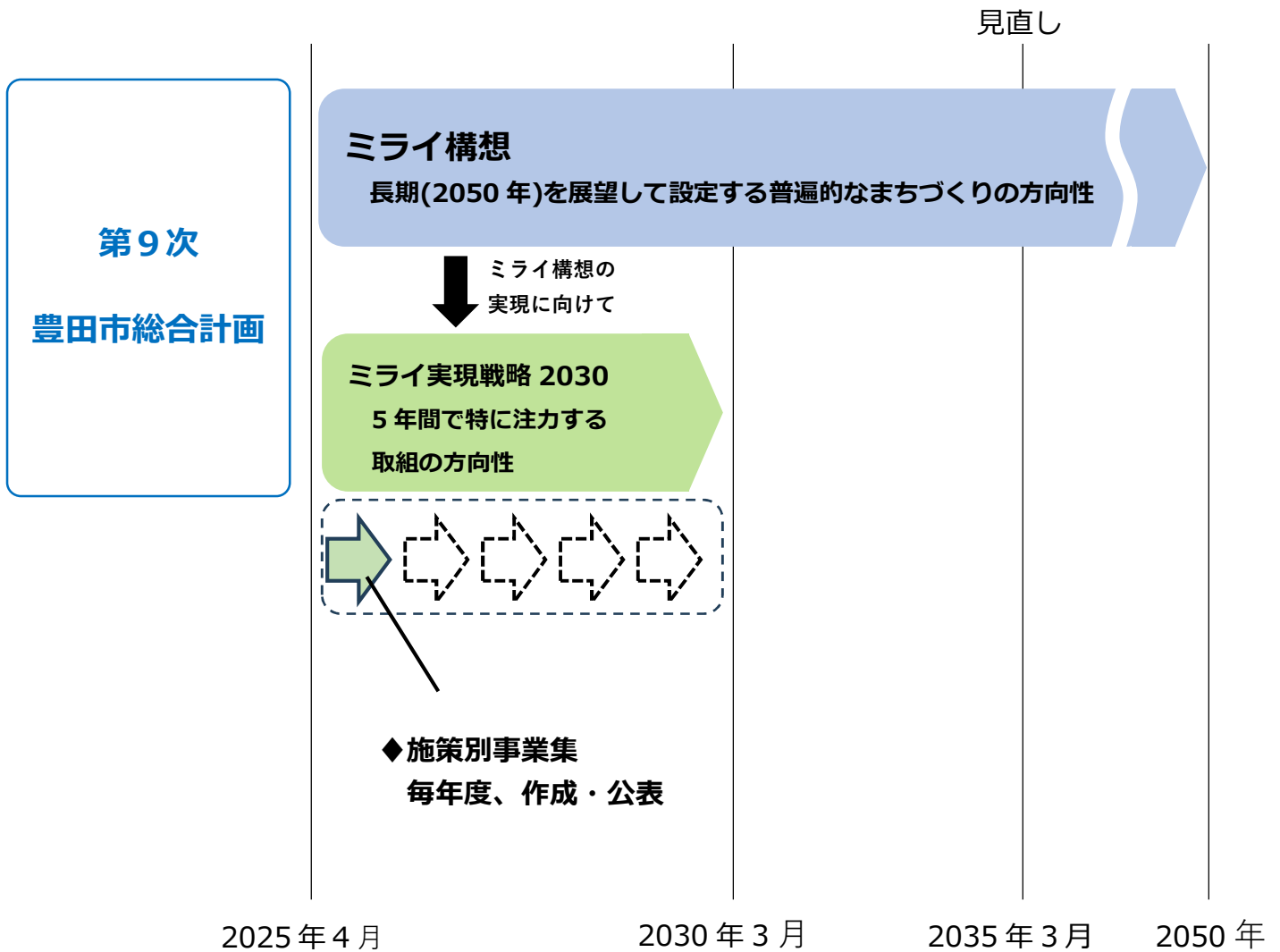
(4) 豊田市総合計画推進会議とは

豊田市総合計画推進会議（以下「推進会議」という。）とは、総合計画の推進に関し、調査及び検討を行うため、「総合計画の施策の推進に関すること」及び「国の動向等、総合計画に反映すべき社会情勢に関すること」について協議する会議です。

(5) 施策別事業集とは

施策別事業集は、ローリングの結果を踏まえ、当該年度に実施していく主な取組を示したものです。

第9次豊田市総合計画の構成と施策別事業集の関係

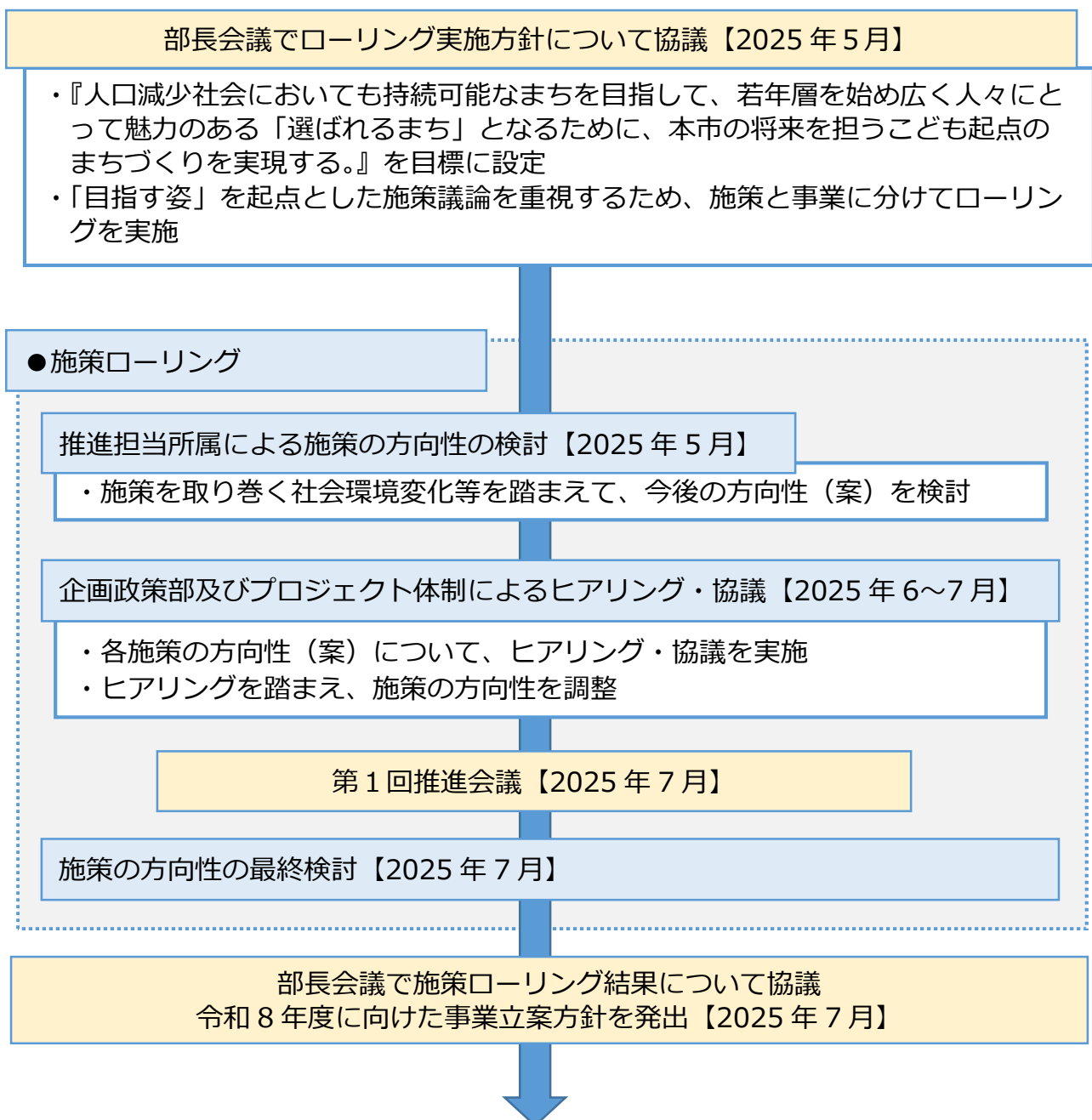


2 2025年度ローリング概要

(1) ローリングのポイント

- ・ミライ実現戦略 2030 に掲げる5つの取組目標の実現に向け、「目指す姿」を起点とした進行管理を実施
- ・ミライ実現戦略 2030 の各施策の課題や取り巻く状況変化を把握し、今後の施策の方向性を整理した上で、次年度の事業の方向性を検討
- ・分野横断的な施策の推進にあたっては、企画政策部とプロジェクト体制によるヒアリングの実施やプロジェクト本部会議等での施策議論を踏まえて方向性を検討

(2) 2025年度ローリングの流れ



●事業ローリング

各所属による事業の方向性の検討【2025年7～8月】

- ・施策ローリング結果及び事業立案方針を踏まえて、事業の見直しや新規事業の立案を検討

企画政策部及びプロジェクト体制によるヒアリング・協議【2025年8月】

- ・各所属の検討内容について、ヒアリング（協議）を実施
- ・ヒアリングを踏まえ、事業の方向性を調整

第2回推進会議【2025年8月】

事業の方向性の最終検討【2025年8～9月】

事業ローリング結果を発出【2025年9月】

当初予算編成【2025年10月～2026年2月】

第3回推進会議【2026年2月】

2026年度取組内容の確定【2026年3月】

(3) ローリングを踏まえた 2026 年度を取組概要

ミライ実現戦略 2030 の1年目である 2025 年度のローリングでは、ミライ実現戦略 2030 に掲げる5つの取組目標の実現に向け、各施策の進捗状況や社会環境の変化を踏まえ、2026 年度に重点的に推進する事業の検討・調整を行いました。

取組目標①「こどもが多様な生き方・暮らし方を選択できる」では、9月に市内全中学校で開始する「とよた地域クラブ活動」において、こどもたちが自ら望む活動に安全・安心に参加できる環境を、地域や企業、大学等と連携して整えていくこととしました。

また、「アントレプレナーシップ教育事業」や「中学生と地域の大人による対話事業」などを通じて、新たな価値を創造し、主体的・対話的に取り組む「学びの機会」を充実していくこととしました。

また、まちの歴史・文化・芸術や自然等をミライにつなぐ取組として、山城を活用した周遊観光の実施や、棒の手会館の展示リニューアル等、地域の様々な資源を生かしたまちづくりを推進していくこととしました。

さらに、「クルマのまち」の更なる魅力の向上に向けた取組として、世界ラリー選手権を開催するほか、アジア・アジアパラ競技大会では、国内外からの多数の来訪者が見込まれることから、本市の玄関口である豊田市駅東口の公共空間での盛り上げイベント等によるにぎわいづくりに取り組むとともに、次世代モビリティを活用するなど、「クルマのまち」ならではの魅力を国内外に広く発信することとしました。

取組目標②「誰もがつながり合いの中で安心して自分らしく暮らすことができる」では、「若い世代のライフデザイン形成の支援」のほか、新たに「若者の出会いの場の創出」や「結婚・出産お祝い品の贈呈」を実施するとともに、「2歳児及び5歳児の健康診査」や「こども誰でも通園制度」等の子育て支援を実施するなど、結婚期を迎える若者や子育て世代への幅広い取組を推進することとしました。

また、こどもから高齢者まで誰もが、「自分らしさ」を大切にしながら、安心して地域で暮らすことができる環境をつくるため、引き続き、多世代とのつながりを重視した居場所を提供するなど、孤独・孤立予防の取組を推進するほか、自治区業務におけるデジタル化支援や物価高騰等を踏まえた自治区への交付金の増額等、持続可能な地域運営を実現するための取組を推進することとしました。

取組目標③「産業中枢都市として深化し続ける」では、貞宝町周辺における車両工場の新設に向け愛知県企業庁が実施する「豊田貞宝次世代産業地区用地造成事業」の早期完了を目指し、本市の推進体制を一層強化し、地域住民の理解も得ながら取組を推進することとしました。

また、新事業の展開や新製品の開発へのチャレンジの促進に向け、ものづくり創造拠点 SENTAN を拠点に、オープンイノベーションの活用などを通じて、新たな事業展開にチャレンジする市内企業を支援し、本市で活躍する新たなプレイヤーを支える体制を拡充することとしました。

さらに、性別・年齢・国籍・障がいの有無等にかかわらず、幅広い人材が本市で働きたいと思えるまちの実現に向けて、公民連携による「(仮称) D E & I (ディー・イー・ア

ンド・アイ) 推進協議会」を新たに設置し、多様な人材が活躍できる職場環境への変革を促進することとしました。

くわえて、多様な人材の確保やキャリア形成、スキルアップの支援に引き続き取り組むほか、女性を始め、様々な人にとって魅力ある雇用や職場の創出に向けた検討を進めることとしました。

取組目標④「将来を展望した都市環境の形成を進める」では、豊田市駅東口駅前広場等の整備を始め、魅力的な都心形成を推進するとともに、9月に開設予定のスポーツパーク整備の着実な推進を図るほか、毘森公園については、幅広い市民が利用したくなる魅力的な公園となるよう、リニューアルの検討を進めることとしました。

また、令和8年度に開通予定の国道155号関連市道の整備等の都市基盤整備を推進するほか、頻発化・激甚化している豪雨災害に備えた流域治水対策や南海トラフ地震などの大規模災害に備えた施設の耐震化対策等、市民の安全・安心を守るための対策を推進することとしました。

さらに、山村地域においては、住宅取得や空き家活用に対する支援を拡充するなど、移住・定住を引き続き促進するとともに、地域おこし協力隊や集落支援員などの新たな人材を活用し、地域の活性化や集落機能の維持に向けた取組を進めることとしました。また、都市と山村の交流機会を促進することで関係人口を創出し、都市と山村の共生を一層推進することとしました。

そのほか、自然環境の適切な保全を図るため、森林が持つ土砂災害防止や水源かん養等の公益的機能が十分に発揮されるよう、人工林の間伐を着実に進めるほか、農地が持つ多面的な機能を維持するための活動を引き続き支援することとしました。

取組目標⑤「脱炭素社会の実現に挑戦する」では、気候変動による夏の暑さへの対策として、緑のカーテンの設置や日傘等の利用を促進する「とよた・涼活アクション」を新たに展開するほか、市民を対象に、住宅で1年間に使用され生み出されるエネルギーの収支がおおむねゼロとなる「ネット・ゼロ・エネルギーハウス(ZEH)」等への支援に加え、省エネ性能の高い「脱炭素志向型住宅」の購入についても支援を拡充することとしました。

また、新たなエネルギーや技術の利活用に向けた取組として、水素関連技術を活用できる人材の育成のほか、水素を活用した生活を市民に身近に感じてもらえるよう、啓発に取り組むこととしました。

さらに、新技術であるペロブスカイト太陽電池について、社会実装の早期実現に向けて、愛知県を始めとする公民の連携により本市の公共施設に設置し、実証を進めることとしました。

あわせて、福祉分野における相談支援体制の一層の充実を始め、市民の健康と福祉を支える取組を引き続き実施するとともに、シンポジウムの開催等を通じて本市の取組を多方面に発信することにより、公民連携による地域共生の輪を一層拡大することとしました。また、本市の窓口業務においてデジタル技術を活用した市民サービスの向上を図るほか、地域や事業者等と共に取り組む交通安全対策の一層の推進、防犯対策の強化など、市民が安全・安心で快適に暮らせるまちの実現に向けた取組についても着実に推進することとしました。

**第9次豊田市総合計画
ローリング結果公表資料（2025年度版）
2026年3月**

〔発行〕

豊田市 企画政策部 企画課

〒471-8501 豊田市西町3丁目60番地

電 話：0565-31-1212（代表）

0565-34-6602（直通）

E-mail：kikaku@city.toyota.aichi.jp